

## 1 学校教育目標

21世紀に生きる、心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人間尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。 ○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔のある学校⇒夢や希望、笑顔での挨拶、お互いを思い合い感謝できる</li> <li>・あたりまえのことを大切にす学校⇒返事、学習規律、・ルールとマナー</li> <li>・互いのよさを学び合い、教師間協働ができる学校⇒協働意識による学年全体の向上、学校運営参画意識の高揚</li> <li>・地域・家庭に信頼される学校⇒生命の尊重、安全で衛生的な教育環境</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい子⇒思いやりの心で自他の存在を尊重し、互いの関わりの中で高め合える子</li> <li>・考える子⇒基礎・基本を身に付け、見通しと振り返りによって自らの学びを進められる子</li> <li>・元気な子⇒すすんで心身を鍛え、健康と安全について考えながら生活できる子</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情熱と使命感をもって、常に子供を中心に据えた指導を展開する教師</li> <li>・子供の目線や立場に立ち、その子供の良さを引き出し、子供の自己肯定感を高める教師</li> <li>・社会や時代の要請を敏感に捉え、自己啓発に前向きな教師</li> <li>・教師間協働により、学校経営参画意識をもち学び育て合う教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### ○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】

学力ポートフォリオを活用した「児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着」を目指し研修会を3回実施した。算数科におけるつまずきの原因分析だけでなく、問題を一題取り上げ効果的な指導方法について全教員で検討・確認した。また、昨年度までの学力ポートフォリオを活用し、児童がつまずきやすいところを教員が再確認し、授業を行うことで成果が見られた。

昨年度同様に国語では「書くこと」、算数では「読解を必要とする活用問題」を苦手としている児童が多いことが明らかとなった。「書くこと」については、児童が相手意識・目的意識を明確にして文章を書けるように指導方法について研究を行っている。授業では、時間を確保し、自分の考えを書けるように指導している。しかし、学力調査等では、限られた時間内に問題文を読み、語句を抜き出したり、条件を踏まえて短文を書いたりする問題が出るため、「書くこと」が課題となってしまう。文章を短時間で読み、理解することができるよう漢字や語彙を習得させ、読書量を増やすなど具体的な手立てを検討していく。

下位層の児童には、漢字の読み書き、語彙の修得、読書の推奨、四則の計算練習、かけ算九九の正確な暗記等、基礎基本を徹底する上で必要な事項について、弘一タイムやすつきりタイムも使い、修得できるよう指導している。そして、中間層の児童の個々の学力向上を目指すとともに、全体として到達度診断の通過率の向上も目指す。

○【人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】

本校の特色である正門での毎日のあいさつ活動は12月から全学年の児童が実施した。12月に実施した学校アンケートでは「あいさつや返事などの生活の基本的なルールの徹底に努めているか。」について「よくできている」「ほぼてきている」は83%であった。以前は、大きな声で元気よくあいさつできる児童が多かったが、コロナ禍でのマスク生活が長くなり、あいさつの声が小さくなったり、あいさつができていないと相手に思われてしまったりすることがある。学校アンケートには、教員のあいさつに課題があるという意見もあった。大人も子供も相手が気持ちが良いと思うようなあいさつができるようやさしい子PTが中心となって行っている「言葉づかい」の取り組みと合わせて、あいさつや返事などについての指導も継続する。

○【児童一人一人の体力の向上】

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために、体育の授業内容に制限があった。授業で行えるのは、体づくり運動や持久走、縄跳びなど一人の運動が多かった。ボール運動などチームで作戦を考え行う運動など、友達と一緒にできる運動が少なかった。今後も体力向上を目指し、可能な活動の指導を行っていく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止	○	○	○	○	○
3	運動に親しみ体力の向上	○	○	○	○	○

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着	4月 80% 年度末 80%	4月実施区調査結果 国語／算数の通過率 学校 81.1%／83.8% (2科 82.4%) 2年 67.3%／82.7% 3年 89.8%／91.8% 4年 83.1%／83.1% 5年 82.0%／76.0% 6年 83.7%／85.7%	R3年度比 国語／算数の通過率 学校 80.4%／84.8% (2科 82.6%) 国語(+0.7%) 算数(-1.0%) 2科(-0.2%) ・平成30年度では70%未満であった通過率が80%台で安定してきた。現在は学年間や学級間での較差が大きな課題であり、日常的な教材研究や学力向上の取組の改善を通して通過率向上を目指していく。		○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	指導方法の 改善  学力ポート フォリオの 活用	算数	研修 7月 12月 2月	○担任・専科・管理職 区調査、単元テスト結果から 児童のつまずきを知り、つま ずきを出さない指導の検 討・実践を通して指導方法を 改善する。	学習到達度診 断  実施ごとに結 果を報告	単元ごとに 定着率 85%以上	単元テスト正答率 学校(国)前 83% 後 87% (算)前 84% 後 86% 1年(国)前 91% 後 90% (算)前 96% 後 94% 2年(国)前 78% 後 86% (算)前 80% 後 89% 3年(国)前 80% 後 86% (算)前 86 後 86% 4年(国)前 80% 後 79% (算)前 74% 後 78% 5年(国)前 82% 後 86% (算)前 77% 後 79% 6年(国)前 89% 後 92% (算)前 89% 後 88%	・学年や教科によって 差異はあるが、昨年 度のポートフォリ オ資料を活用した 結果、正答率の全体 平均値は 85%となっ た。 ・学力ポートフォリオ に加えて、授業改善 プランの進捗状況 を確認しながら、新 たなつまずきに関 して各学年で手立 てを講じながら取 り組んでいった。	○
2 継続	つまずき 補習	国語  算数	すっき りタイ ム 金曜日 年 30回 123年生 5校時 456年生 6校時	○担任・専科・管理職 ①4月の区調査結果から未 定着な学習内容を補習す る。(前学年のつまずき) ②単元末の到達度診断結果 から未定着な学習内容を 補習する。(現行学年のつま ずき)	学習到達度診 断  実施ごとに結 果を報告	①10月までに 通過率 90%以上 (区調査前学年)  ②1月までに 通過率 80%以上 (区調査現学年)	①7月到達度診断 国語/算数の通過率 学校 91.0%/88.9% (2科 90.0%) 2年 90.6%/90.2% 3年 100.0%/95.8% 4年 82.4%/85.8% 5年 91.0%/79.1% 6年 91.3%/93.5%  ②12月到達度診断 国語/算数の通過率 学校 69.0%/65.0% (2科 67.0%) 1年 65.1%/60.3% 2年 69.6%/44.7%	・前学年の学習内容 については、10月 を待たずに7月の 段階で国語は4年 生を除き、算数は 4,5年生を除いて 通過率 90%を超え 学校全体の平均で 90%に届くことが できた。 ・一方で現学年の既習 事項について12月 時点で80%を超え たのは、5,6年生の 国語と6年生の算数 だけであった。授業 を進めつつも、現学	①○

							<p>3年 65.0%/59.7% 4年 59.4%/59.0% 5年 71.5%/81.0% 6年 83.6%/85.7%</p> <p>②3月到達度診断 国語/算数の通過率 学校 85.7%/87.6% (2科 81.4%) 1年 82.6%/100.0% 2年 81.4%/84.5% 3年 100.0%/95.4% 4年 83.6%/64.9% 5年 85.7%/85.3% 6年 81.2%/95.7%</p>	<p>年でのつまづきを解消できるように各学年で方策を立て、それに基づいて苦手箇所の重点的な復習を行う。</p> <p>・12月の結果を受けて各学年で児童の実態に応じた取組を検討、その内容を共有しながら学校全体で取り組んだところ、ほぼ全ての学年の2科で通過率80%を超えることができた。</p>	②○
3 新規	PUタイム (朝学習)	算数 国語	毎週 火木金 朝 15分	○担任、学習支援員 音読、読書、読み取り、漢字、AIドリル、東京BD	到達度診断正 答率	80%以上	<p>・7月到達度診断 国語/算数の正答率 学校 84.4%/83.6% (2科 84.0%) 2年 87.6%/89.8% 3年 93.3%/92.4% 4年 74.7%/77.2% 5年 78.6%/76.5% 6年 87.6%/82.0%</p> <p>・12月到達度診断 国語/算数の正答率 学校 69.8%/68.9% (2科 69.4%) 1年 75.5%/80.1% 2年 75.0%/65.2% 3年 62.6%/62.3% 4年 58.4%/59.5% 5年 70.1%/71.5% 6年 77.0%/75.0%</p>	<p>・前学年の既習事項については7月時点で正答率80%を超えることができたが、現学年の学習内容ではほとんどの学年で70%程度であり厳しい結果となった。毎朝15分の継続的な取組であるだけに、より効果的な方法を模索していく必要がある。授業時間内で適用問題の演習が十分でなかった場合などは、AIドリル等を活用しながら基礎学力の定着を図っていく。</p>	○

							<p>・3月到達度診断 国語／算数の正答率 学校 79.4％／82.8％ (2科 81.1％)</p> <p>1年 84.5％／95.7％ 2年 76.6％／83.8％ 3年 88.7％／86.3％ 4年 69.8％／66.9％ 5年 78.3％／79.4％ 6年 78.9％／84.6％</p>	<p>・12月時点から年度末 までに一人一人の 児童のつまずきが 一題でも多く解消 されるよう、区調査 問題と紐付けした Qubena (AIドリル) の問題を活用して いく。2科平均では 目標 80％に達した。</p>	
4 継続	学校図書館 の活用	国語	<p>年間 朝読書  週1回の 利用</p>	<p>○児童 ①目標達成者を表彰。 強化旬間を年2回実施。  ②調べ学習で平均週1回の 割合で年間を通して図書館 を利用。利用記録で表彰。</p>	<p>読書記録カ ードに記録  教員の申告</p>	<p>①月2冊 年24冊読書  ②年30回利用</p>	<p>①学校 78％ 1年 100％ 2年 95％ 3年 83％ 4年 88％ 5年 25％ 6年 76％  ②学校 (平均18回) 1年10回 2年30回 3年30回 4年10回 5年15回 6年15回</p>	<p>①昨年度学校全体の 達成率(56％)から22 ポイントと大きく向上 した。学年格差が次 年度の課題である。  ②昨年度利用回数(平 均19回)とほぼ同 様であった。タブレ ットによるインタ ーネット検索が可 能になったため、学 校図書館ならでは の調べ学習の内容 を考えていかなけ ればならない。</p>	○
5 継続	I C T機器 の活用	全教科	<p>①週に 複数回 ②週に 複数回 ③半 期に1回以 上</p>	<p>○担任 ①児童が児童用タブ レット 端末を用いる授業 を実施。 ②対象学年児童に A Iドリルによる 個別学習を実施。 ③プログラミング 教育の実施。</p>	<p>週の学習計 画  教員の申告</p>	<p>・実施した教員 の割合各80％</p>	<p>①前期 83.3％ 後期 91.6％ ②前期 66.7％ 後期 100.0％ ③前期 50.0％ 後期 66.7％</p>	<p>①高学年においては ほぼ100％だが、 低学年児童はタブ レットの利用に操 作面で難しさがあ る。 ②A Iドリルの活 用研修を行い、後 期は100％実施に 達した。 ③昨年度(33.3％) の倍近く向上した。</p>	○

重点的な取組事項－２		「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
友達に対して、いつでも優しい言葉かけができる。	学校評価 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉遣いに対する取り組みを隔月で行ったことで、日常的に自分の言葉遣いを振り返る習慣ができてきた。</li> <li>「言葉遣いアンケート」で、「強い言い方や冷たい言い方にならないよう気を付けている。」の肯定的解答値は96%だった。</li> <li>同アンケートで、「らんぼうな言葉遣いで、友達を傷つけてしまったことがある。」は昨年度7%から今年度4%に減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乱暴な言い方にならずに自分の気持ちを相手に伝えられるよう、言い方を工夫して考えられる児童が増えてきた。一方で乱暴な言葉を繰り返して発してしまう児童に対しては、個別に指導していく必要がある。</li> </ul>	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>各々の違いが分かり、認め、生かしていける態度が身に付く</li> <li>QUでの学校生活満足群に属する児童が増える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策の一環として、道徳授業を充実させると共に、互いの良さを認め合える学級活動を充実させる。</li> <li>縦割り班活動での遊びや展覧会でのギャラリートツアー等異学年との交流活動を行う。</li> <li>オリパラ教育を通して国際理解、障がい者理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週の道徳授業、朝の会、帰りの会に、学級で週1回以上「思いやり・親切」「人権尊重」について各学級で重点的に指導した。</li> <li>いじめに関する授業と教員の研修を年3回実施した。</li> <li>PTA主催のparasports体験イベントを2年連続で実施した。</li> <li>QUでの学校生活満足群に属する児童は前・後期ともに全国平均43%を上回る約60%となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに関する授業や互いを認め合う活動の充実が、いじめの未然防止につながり始めた。</li> <li>QUでの侵害行為認知群の割合が後期では減少した。今後は自己肯定感の向上を目指していく。</li> </ul>	◎
挨拶・言葉遣いの意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>すすんで挨拶ができる</li> <li>場に合った言葉に気を付けて遣い分けができる</li> <li>敬称をつけて名前を呼ぶことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導の進捗を確認しながら教員の意識を高め、より良い方法を工夫させる</li> <li>児童の挨拶運動を拡張する取り組みを企画・計画させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学級全児童による登校時のあいさつ運動は定着している。</li> <li>5月から「言葉遣い重点週間」を年5回実施し、道徳・学級活動の時間に事前・事後指導を行った。</li> <li>「言葉遣いアンケート」で、「相手や場面に合わせて、言葉を使うことができましたか。」の肯定的解答値は98%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動や言葉遣い重点週間の設定により言葉遣いに対する意識の向上が見られるようになった。</li> <li>事前・事後指導を継続することで、調査を重ねる度に望ましい数値の向上が見られた。</li> </ul>	◎

特別活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価で肯定的に評価できる</li> <li>努力している自分を認めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の活躍の機会を増やし、自己肯定感・自己有用感を高める</li> <li>めあてをもって行事に取り組み、自己の取組について過程や結果を振り返らせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区調査では「集団への貢献意欲」が平均よりも高く、代表委員会や縦割り班の班長、集会委員会など、高学年が低学年児童のために活躍できる場を提供できた。</li> </ul>	昨年度よりも異年齢活動の中で児童が活躍する場は多くなった。行事以外の日常生活の中で、さらに交流できる場を模索したい。	○
------------	--	--	--	--	---

<b>重点的な取組事項－3</b>	児童一人一人の体力の向上
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
すすんで運動しようとする態度を育てる	令和4年度の体力状況調査結果で全国の平均を上回る種目を8種目中5種目にする。	全国平均を上回っている種目 1年 男子2 / 女子0 2年 男子2 / 女子2 3年 男子1 / 女子3 4年 男子0 / 女子4 5年 男子1 / 女子1 6年 男子2 / 女子3	全国平均を上回っていたのは最大でも4種目であり、1年女子と4年男子では上回る種目なかった。昨年度より特に低学年での体力低下が顕著に見られる。体育の授業だけでなく、遊びの中で日常的に児童が体を使う機会を工夫しながら設けていくことが必要である。	△

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力状況調査結果で全国の平均を上回る種目を1種目増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてをもって体育の学習に取り組み、自己評価しながら運動を工夫するための「体育学習ノート」を段階的に導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均を上回っていたのは、上体起こし女子全学年、握力6年男女のみ、ソフトボール投げは3年女子のみであった。立ち幅跳びは全学年男女ともに全国平均に届かなかった。</li> <li>学習ノートを利用した授業の実施学校（平均80%）            1年 70% 2年 90%            3年 80% 4年 90%            5年 70% 6年 90%</li> </ul>	学習ノート等を活用して、自分のめあてを意識して活動し、ふりかえりを行う授業の実施率は昨年の68%から12ポイント向上した。しかし体力状況調査結果は昨年度を下回っており、実際に体を動かす運動量の十分な確保が次年度の課題である。	△

体力向上のための行事の充実	休み時間に校庭に出て運動に取り組む児童の数を増やす	・年間を通して運動が継続できるようにマラソンや縄跳び（短なわ・長なわ）など体育的行事の内容や方法を改善する。	・マラソン練習、大縄や短縄など体育的行事の活動中は、教員も一緒に活動を盛り上げ、児童が校庭に出る機会は確実に増えた。 ・短なわ6月～3月実施 ・長なわ1月～2月実施	遊びを通して、体力向上に繋げられるよう、教員の働きかけが功を奏している。次年度からは少しずつ児童主体の活動へ移行させていきたい。	○
運動に向かう環境づくり	運動する場に参加する児童数を増やす	・友達と一緒に運動することの楽しさを感じられる運動する場を設定する。 学級あそび サーキットトレーニング	・自主的にマラソン大会や短なわ・長なわ大会等の体力向上に向けた行事に向けて練習する児童の姿が見られた。 ・投てきターゲットを新たに設置したが、サーキットトレーニングは実施することができなかった。	児童は体力向上の行事に対する事前練習には本当によく取り組む。日常の休み時間での運動量が確保できる活動内容を、元気な子PTで検討していく。	△

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】

「児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着」を目指して、算数では全学年で学力ポートフォリオを活用した研究授業と研修会を3回実施した。習熟度別の各授業者へは、管理職からの授業観察に基づいて更なる授業改善についての指導・助言を行った。研修会ではつまずきの原因分析に留まらず、各学年から具体的な問題を一題選び出してその効果的な指導方法についての改善提案を行い、全教員で検討・確認・共有を行った。また昨年度までの学力ポートフォリオを活用し、児童がつまずきやすいところを事前に全教員で一斉に再確認する時間を設定するなどの試みも行った。

国語では「書くこと」を苦手としている児童が多いことから、今年度も継続して「書くこと」について、特に相手意識・目的意識をより明確にさせることで、児童が自分の考えを目的的に文章に書けるよう指導方法の研究を行った。一方で学力調査等の結果からは、限られた時間内で問題を解くために必要な語句への着眼点や、求められる条件に応じた答え方などについての課題が多く見られる。現在、取り組んでいる研究を推し進めていくことに加え、学力を発揮するために必要な力（文章の主旨を短時間で掴む力、問われている内容に正対する力など）を育てていく必要がある。

弘一タイムやすっきりタイムでは、漢字の読み書きや語彙の修得、朝読書、四則の計算練習、かけ算九九検定等を通じて基礎基本の徹底について取り組んできたが、次年度は区調査問題とA Iドリルを紐付けした Qubena シートを活用しながら個別最適化された学習の推進に努めていく。また学力向上に取り組んできたこれまでの研究成果を、全教員が授業準備や教材開発に色濃く反映させるための日常的な機会を新設していく。

#### ○【人権尊重】と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】

本校の特色である「あいさつ活動」は、今年度も全学年児童で実施することができた。校内においては昨年度までコロナ禍で滞っていた縦割り班活動や児童集会などが再開し、PTAや開かれた学校づくり協議会主催の各種イベントでも望ましい異学年交流が数多く見られた。様々な場面で自分と相手の良さを互いに感じ合いながら活動できたことは、心の成長に大きな影響を与えていた。また、年間を通じて展開している「言葉づかい重点週間」は、自らの言動を振り返る機会として次年度も継続して取り組んでいく。

また児童が生活を共にする学級集団の望ましい成長は、いじめの未然防止や授業での学力獲得の土台となっていくものである。いじめの防止や個別に支援を要する児童の実態把握のため、前・後期に実施するQU調査の結果には特に注視したい。

## ○【児童一人一人の体力の向上】

昨年度までの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による体育の授業内容制限があったためか、今年度の体力状況調査の結果において全国平均値を上回る種目は全学年で減少しており、特に低学年では大幅に減少した。一方で今年度より再開した体育的連合行事では、本校児童の選手が各種部門で区内上位の成績を収めるなど相反する結果が見られ、日常的に運動に慣れ親しんでいる児童とそうではない児童との格差が生じているように思われる。次年度は、児童の運動習慣や体力についての実態調査に基づき、特に各学年の不得意種目を明確にしなが、その克服に向けて計画的な体力向上の取組を施していく。

## ○【ICT機器の活用】

全児童が学校と自宅でタブレット端末を使用できるようになり、子供たちが教科書やノートと同様にタブレットをツールとして学習に使っている姿は日常的なものとなっている。児童がタブレットに慣れ親しんでいる中、授業者の習熟によってタブレットの活用状況に差異が生じないよう、今後も教職員の研修会で活用方法等の共有を進めていく。一方でタブレット端末やデジタル教科書は決して万能ではなく、学習内容や学習場面に応じて従来の指導方法と明確に使い分けていく必要があることも忘れてはならない。

また調べ学習をはじめとして様々な場面でインターネットを使用する機会も増えていること、SNSなどによる教師や保護者に見えづらい場でのトラブルが増えていることなどから、今後はさらに情報リテラシー教育を充実させていく必要がある。

## (2) 保護者や地域へのメッセージ

○本校では、開かれた学校づくり協議会が主催者となり、日本漢字検定協会の漢字検定や日本数学検定協会の算数検定の準会場として、今年度も検定試験を実施することができました。平成25年9月より始めた漢字検定の全員受検を目指した廃品回収は、令和に入った現在も継続しています。日常的に多くの保護者や地域の方々が、古紙やアルミ缶を持ち寄ってくださり、その収益をもとに今年度も2月に2～6年生全員が、ご家庭からの負担なしで漢字検定を受検することができました。この取組は創立50周年を機に基金が設立され、平成30年度足立区ビューティフル・スクール運動の特別表彰を受賞しました。今後も令和7年度の創立60周年を目指して、皆様のご協力のもと引き続き実施していきたいと考えています。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

○開かれた学校づくり協議会やPTA・地域の皆さまと協働して、コロナ禍にも関わらず子供たちのために様々なイベントを実現することができました。以下に主なものを挙げさせていただきますが、普段の学校生活では見られない子供たちの笑顔をたくさん目にすることができ感謝しております。

- ・ 6月25日(土) PTAパラスポーツ体験会…昨年から継続して実施していただき、新種目や競技用車いすなども体験させていただきました。
- ・ 8月29日(月)～31日(水) 朝のラジオ体操…近隣町会の皆様と子供たち、老若男女が一堂に会して朝からラジオ体操で体を動かしました。
- ・ 9月 3日(土) 新聞ドームづくりイベント…Jrリーダーの皆様のご指導のもと、参加者全員で新聞をつなぎ合わせ巨大ドームを完成させました。
- ・ 11月11日(金) 弘一落語会…林家たけ平師匠をお招きして、4・5年生は体育館で落語鑑賞(他学年はリモート鑑賞)をさせていただきました。
- ・ 1月19日(木) 家庭教育講演会…飯田あきら氏を講師にお迎えして、教職員・保護者・地域の皆様で性の多様性に関する正しい知識を学びました。
- ・ 2月25日(土) カレーランチ会…今年度は様々な工夫で感染症予防対策に努め、卒業生を中心に楽しく美味しい思い出づくりができました。

このようなイベントに加えて毎月一回、子供たちの安全安心のために学校・PTA・警察・地域のたくさんの皆様にお集りいただき、地域パトロールを実施させていただきました。弘道の宝物である子供たちを、地域の皆様全体で見守っていただけることを大変にありがたく感じております。

○弘一プレイランド(あだち放課後こども教室)では子供たちが安心・安全に放課後を過ごすことができるよう、スタッフの皆様が日々ご尽力してくださっております。また、土曜事業のコアラくらぶの皆様からはコロナ渦のため活動が制限されてしまう現状もございですが、今後の活動再開に向けて様々なご意見を頂戴しております。こうした皆様のお力添えのおかげで、弘道第一小学校の子供たちの心と身体の成長は支えられております。今後とも皆様の力強く温かなご支援・ご協力を賜れますよう、引き続きよろしくごお願い申し上げます。

### (3) その他(学校教育活動全般について)

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底しながら、少しずつコロナ以前に近い形での教育活動を再開することができるようになりました。基本的に毎週月曜日の全校朝会は校庭で実施し、全学年児童が揃った中で講和や表彰を行うことで、学校としての一体感が感じられるようになりました。また運動会、マラソン大会は昨年度の実施方法に改善を加え、より多くの子供たちの活動を保護者の皆様に参観していただくことができました。一方で保護者の皆様からは、一家庭当たりの参観人数を増やしてほしいというご要望が多数届きました。次年度は状況に応じた感染症拡大防止対策や参観方法の工夫により、これらのご要望に応えられるよう検討を進めてまいりますので、一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
- 5年生の鋸南自然教室・6年生の日光自然教室はコロナ前と同様の2泊3日で行うことができ、安全かつ健康に、充実した宿泊行事を成功させることができました。また各学年の遠足や社会科見学、校外学習なども感染症予防対策を講じながら計画通りに実施することができました。
- 縦割り班遊びなど本校の特色でもある異学年交流活動は、昨年度同様に密にならないような実施方法や場所の工夫をしながら行いました。上級生のリードで下級生の笑顔が生まれ、下級生の笑顔が上級生の笑顔へと広がっていく様子は実に微笑ましく、学校ならではの素晴らしい光景が生まれました。
- 「展覧会」では作品そのものから得られる感動はもちろんのこと、作り手の意図や制作過程の努力・工夫を知ること、お互いの良さを認め合う貴重な学習の機会にもなりました。上級生が下級生を連れながらグループで行ったギャラリーツアーでは、下学年の児童を気遣う上学年の児童の頼もしい姿が随所に見られ、互いに自分やお友達の作品説明を行いながら交流を深めることができ、単なる作品鑑賞以上の成果が見られました。